

# 教えることは

学び合い 高め合う子ども

2019. 11. 25

No.82

校長 渡邊 幸二

金曜日は授業参観でしたが、**学び合い**の様子や、その成果が感じられる授業を公開していたように思います。ありがとうございました。私は若い頃、授業参観というと、親が子どもの様子を見に来る、学級の様子を見に来るとい、どちらかといと受身的に考えていました。当然、その準備はどこかに「大変だな。子どもが活躍する場をつくんなきゃな!」と思っていました。もちろん「親が見に来るので…」というところもありますが、今は授業参観を**アカウンタビリティの機会**として積極的に捉えています。つまり、学級であれば、自分の学級経営を積極的に開き、説明する場としての授業参観です。学校としても、どんな学校経営を行っているかを説明する意味で授業公開をしているということです。



## 二度学ぶこと

金曜日は、夕方から前任の松原小学校・松原学区自治連の30周年を祝う会が行われ、そこに参加してきました。

たくさんのご来賓があいさつをされていましたが、村上教育長は、その祝辞の中で、ご自分の心に残っている言葉を用いながら述べられていました。それが、

「教えることは、二度学ぶことである。」(ジュベール)

です。



どんな文脈で教育長がこの格言を引き合いに出したか覚えてないのですが、この言葉を聞いたとき、私は「これだ!」と思って、いつも持ち歩いているメモ用紙にその言葉をしたためました。私はまさに、**その格言は浜田小学校のためにあるのだ**と思ったのです。

「学びの共同体」として学び合いを進めていると、Aさんが同じ班の人に自分の考えを説明し、それをわかったBさんがCさんに伝え、それでもわからないと、再びAさんが加わり…、やがてわかったCさんは別の班の誰かに教え…、というような学び合いが生じます。子どもたちが考えた「解」が、いろいろな人から、さまざまな言葉で語られ、まるでらせん階段のようにくるくる回りながら伝わっていく。浜田小学校の学び合いを、私はそんなイメージで捉えています。子どもたちは、そんな中で「二度(以上)学んでいる」のだと思います。